

2005 年 3 月 11 日

オリセツト®ネット増産計画

住友化学は、防虫剤を練り込んだ蚊帳「オリセツト®ネット」の生産能力を2005年に、現在の500万張り／年から2,000万張り／年に増強することを決定し、3月10日にセネガルのダカールで開かれた「アフリカライヴ2005 ロールバックマラリアコンサート」の記者会見において発表いたしました。

疫病や貧困に苦しむアフリカへの支援は、今年1月にスイスで開催された世界経済フォーラムの年次総会（ダボス会議）においても、主要な議題のひとつとして取り上げられたとおり、現在、国際社会が抱える喫緊の課題となっています。特に、マラリアは世界全体で年間3億人が感染し、百万人以上の人々が死亡していますが、その大部分はアフリカで発生しています。マラリアによる経済被害は、アフリカのGDPを1年間に120億ドル（GDPの2％）減少させているとも言われています。アフリカの経済発展のためにはマラリアの防圧が必要不可欠と言っても過言ではありません。

マラリアを予防するには蚊帳を使用しマラリアを媒介する蚊から身を守ることが経済的で有効な方法であることは、これまでも認識されていましたが、従来の蚊帳は耐久性や薬剤の持続性の点で問題がありました。当社はそうした問題に着目し、洗濯しても防虫効果が持続し、通気性がよく丈夫な「オリセツト®ネット」を開発しました。そして、2000年から本格生産に着手し、さらに2003年にはタンザニアの蚊帳メーカー（A to Z Textile Mills 社）にその生産技術を無償供与し、製品の量産体制を整え、国連児童基金（UNICEF）や世界保健機関（WHO）を通じてアフリカ各国へ供給してきました。

現在、WHOなどが中心となって進めるロール・バック・マラリア・キャンペーン（マラリア防除作戦）は2010年までのマラリアによる死亡率を現在の50％とすることを目標として、防虫蚊帳の普及などを積極的に推進しています。当社も「オリセツト®ネット」の供給を通じ、このキャンペーンに協力してまいりました。WHOの予測によると、需要は今後5年の間、年間3,000～4,000万張りに達することから、それに応じるため、当社はこれまでの生産能力を4倍にする大幅な能力増強を決定いたしました。

なお、当社が主要スポンサーを務める「アフリカライヴ2005 ロールバックマラリアコンサート」もロール・バック・マラリア・キャンペーンの一環として行われるもので、3月12・13日の2日間16時間にわたり、アフリカの著名な音楽家であるユッサー・ン・ドゥール氏をはじめ約20組のミュージシャンが出演しマラリア防圧の重要性を訴え、その具体的な方法として蚊帳の使用を呼びかけます。

当社は、これからも、CSRの一環としてマラリア防圧への取り組みを通じ、アフリカ開発支援へ積極的に貢献したいと考えています。

以上